

	◆水明インターネット句会◆	令和八年九月
20	おさがりの服の最後は案山子かな	
19	振れるとは生きる術なり朝顔も	
18	紺ひかる　舞う削り節　秋の茄子	
17	迸るレモンの香り皿に盛る	
16	鰯雲泳がぬ空や温暖化	
15	完走し仰向けに見る鱗雲	
14	唐辛子右手に宿る淡き熱	
13	並び見る友のまなこや秋夕焼け	
12	野分あと足を知るなり三姉妹	
11	珈琲の底を占ふ秋時雨	
10	乳飲み子の啞え直せし夜長かな	
9	宮の杜櫓太鼓の一番	
8	百八星猪を炙つて酒呷る	
7	銀輪にさや当ていくど青とんぼ	
6	稲刈りや厠でばやく三代目	
5	大花野前行く人の影は無し	
4	長月や猫の額を土起こし	
3	貝割菜支え合いつつ生きてゆく	
2	喜寿若し西瓜の種を飛ばしたり	
1	ケチャップの赤にほだされ食らう秋	

◆水明インターネット句会◆ 令和八年九月	
21	おさがりの服の最後は案山子かな
22	煮こぼるる芋煮の匂ふ河原かな
23	白露の雨山から天に昇りけり
24	有りし日の祖父母祖父母曼殊沙華
25	たうたうと国境またぎ天の川
26	良妻の呪縛解くるや曼珠沙華
27	ガキの日の記憶バツタの匂いかな
28	最終のわざと逃して天の川
29	横綱も宙を飛んだり草相撲
30	縦走のゴールの足湯かなかな
31	秋風や歯科廃院の報せあり
32	バターよりあずきを好む彼岸かな
33	真白なる磁器の深さや秋の蝶
34	願い事言いきれぬまま流れ星
35	奥能登の棚田にすくと立つ案山子
36	休暇明けいつもの街の朝マツク
37	秋の蚊は打たず払わず見送らん
38	大雨をくぐりてかほる今年米
39	病院に癌捨てて来て松手入
40	皺の手に写真図鑑やきのこ狩

◆水明インターネット句会◆																				令和八年九月
60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	色鳥や人はスマホに飼われつつ
逝く夏のこころの襷を洗ふ波	秋日傘ふつと拾いしにわか風	秋日傘歩道のチャイム通りゃんせ	宵闇にゆれる芒は星を詠み	冬銀河ロックバンドの音色かな	高値慣れ今宵も半尾さんまかな	図書本の来歴たどる夜半の秋	点滴が終わるの見てる長い夜	潮騒は子守唄なる秋の午後	七輪やバーの裏手に焼く秋刀魚	庭仕事無花果食むや十時かな	台風や番屋を叩く潮の雨	うなだれて雨の音聞く日々草	梨の香に今年も挨拶ありがとう	母の背の匂い微かに夕化粧	星月夜シミュレーションに没頭す	隣人の部屋の開く音夜寒かな	指に付く液の粘りの秋思かな	国のため酒税せつせと敬老日		

◆水明インターネット句会◆																				令和八年九月
80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	指南書を 片手に剪定 秋支度
系瓜忌やヌク飯盛りて箸一膳	走り去る影の平らさ秋の風	盆踊振りはスマホで稽古する	読み返す本より出でし紅葉かな	ひそやかに風を湿らせ萩こぼる	長雨やアスファルト映す車の灯	総身に秋を授かりペダル漕ぐ	寒暖差ありくしやみあり秋の風	中空に余白の広し秋の空	秋晴や山門よこの行書体	霊峰に一礼をしてして山閉じる	目黒まで出向ひて秋刀魚江戸の風	赤とんぼ馬上の嫁御見送りぬ	動く歩道せかせかと行く健次の忌	朝霧の水滴湛ふ黄金の穂	反故積みて夜の更けゆくや秋螢	秋の水エアー俳句も良いもんだ	動く歩道せかせかと行く健次の忌	虫たちは月と逢えずに泣きにけり		

	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	◆水明インターネット句会◆ 令和八年九月
													遠き人の声が聞きたき夜寒かな	思ひ出の数だけ群れて赤とんぼ	秋風のみなもと恐らく渦巻いて	老いらくの恋はこれから初さんま	病室に寝たきりの日々紅葉濃し	夕照に揺るるすすきや小町塚	絵手紙の大き過ぎたるさつまいも	旅人の犬と戯れ秋の雲	